

書評

三 上 一 夫

○舟沢茂樹著 福井城下ものがたり

本書は舟沢茂樹氏（福井県立図書館奉仕課長）が福井藩についての長年の研究成果をふまえたもので、とくにこれまで新聞・ラジオ・雑誌等に発表、掲載したのが中心となっている。内容は、書名と同じ「福井城下ものがたり」・「福井藩盛衰記」・「福井藩士の周辺」・「福井藩要覧」の四部から成るが、そのなかで柴田勝家が北ノ庄を開いて以来の福井城下の町の形成、武士・町人の様々な生活から年中行事や災害と飢饉、城下騒動に加え、藩政や武家社会の仕組等についての具体的動向を丹念にしかも平易に興味ぶかく描き出している。さらに最後の「福井藩要覧」では、藩主一覧、重職一覧、藩領図、藩士人名簿、福井藩関係文献、年表など、福井藩研究にぜひ必要な事項を収録している。

舟沢氏は、一方において福井藩に関する真しな研究活動を続けており、これまで数々の論文を発表し、同藩研究の第一人者と目されるだけに、本書での平易な著述のなかに、学問的な香りがひしひしと感ぜられる。

（発行所、福井PRセンター、二〇四ページ、定価九八〇円、アフエニックス選書V申込先、市内書店）